

うちエコ診断制度の認知度及び意識
問32 うちエコ診断制度の認知度

県では、家庭の地球温暖化対策として「うちエコ診断」を推進していますが、この制度をご存知ですか。また、受けたことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

《「うちエコ診断」とは》

- ご家庭に合わせたオーダーメイドの対策を提案します。
- 専用ソフトを用いて診断するので、診断結果がその場ですぐ見え、すぐ分かります。
- 家庭の省エネ専門家「うちエコ診断士」が診断し、具体的な情報を提供します。

今年度は、うちエコ診断を受けた方が、次のような特典を受けることができる「CO2CO2（コツコツ）がんばるキャンペーン」を実施しています。

- 30年1月4日から3月15日までの間、キャンペーン協力店で省エネ家電（対象商品）を購入する際に、

- ①申請すると、もれなく1%の割引を受けることができます。
- ②今年11～12月の電気・ガス使用量について、前年同月の使用量と比べた削減量に応じて、最大10%の割引を受けることができます。

詳しくは、ホームページでご確認ください。

<http://www.pref.ehime.jp/h15600/coolchoice/index.html>

	(%)
1 うちエコ診断を受けたことがある（問32-1へ）	0.8
2 うちエコ診断を知っている（聞いたことがある）が、受けたことはない（問32-2へ）	6.9
3 うちエコ診断を知らなかった（問32-3へ）	92.3

問32-1 「うちエコ診断」を知った理由

（問32で「うちエコ診断を受けたことがある」と答えた方に）

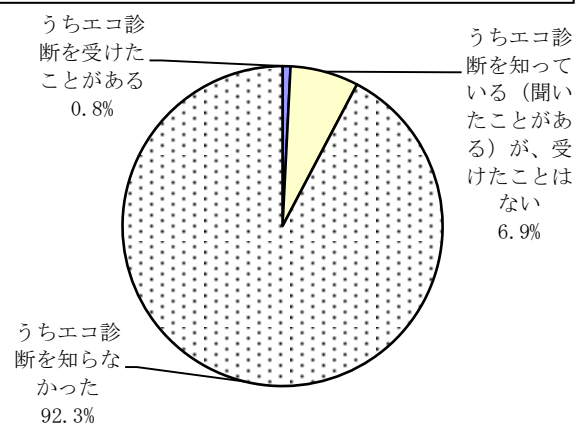
あなたが、「うちエコ診断」を知った理由として、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んで下さい。

（回答者数＝9人）（複数回答） (%)

1 インターネット	0.0
2 イベント	44.4
3 チラシ・ポスター	0.0
4 テレビ	11.1
5 新聞等の記事	22.2
6 その他（具体的に)	33.3

「うちエコ診断」の制度を知っているか、また、受けたことがあるか聞いたところ、全体の9割以上(92.3%)の人が「うちエコ診断を知らなかった」と答え、残り1割弱の人が「うちエコ診断を受けたことがある」(0.8%)、あるいは「うちエコ診断を知っている（聞いたことがある）が、受けたことはない」(6.9%)と答えている。

また、「うちエコ診断」を知った理由として最も多いのは、イベントで44.4%、次いで新聞等の記事22.2%、テレビ11.1%などとなっている。



問32-2 「うちエコ診断」を受けない理由

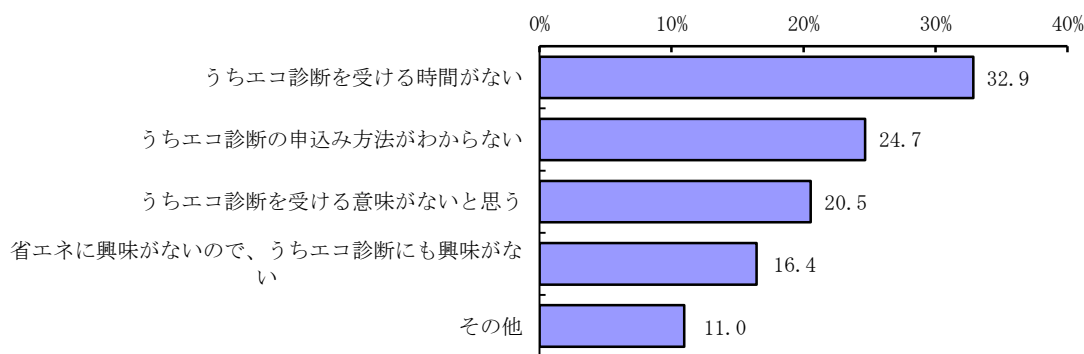
(問32で「うちエコ診断は知っている(聞いたことがある)が、受けたことはない」と答えた方に)

あなたが、「うちエコ診断」を受けない理由として、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

(回答者数=73人) (複数回答) (%)

1	うちエコ診断の申込み方法がわからない	24.7
2	うちエコ診断を受ける時間がない	32.9
3	うちエコ診断を受ける意味がないと思う	20.5
4	省エネに興味がないので、うちエコ診断にも興味がない	16.4
5	その他(具体的に)	11.0

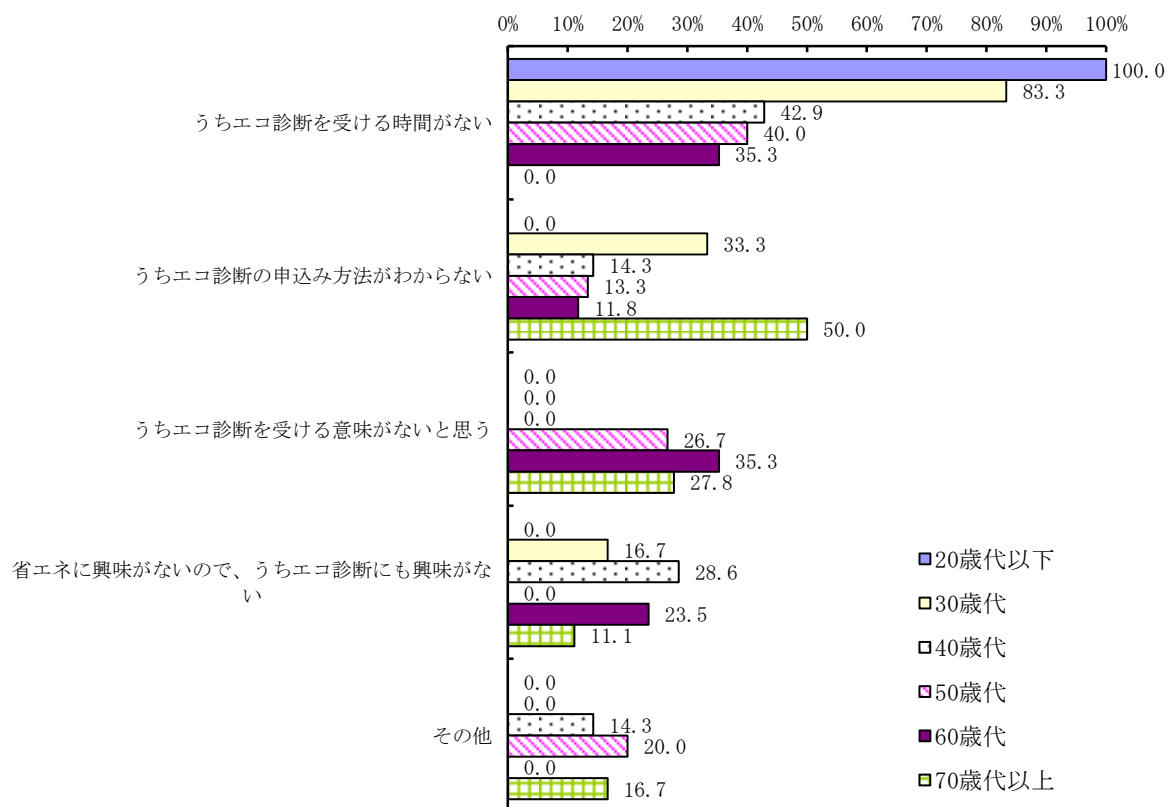
「うちエコ診断」を受けない理由を聞いたところ、「うちエコ診断を受ける時間がない」と答えた人の割合(32.9%)が最も多く、次いで「うちエコ診断の申込み方法がわからない」(24.7%)、「うちエコ診断を受ける意味がないと思う」(20.5%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以下の年齢層では「うちエコ診断を受ける時間がない」の割合が多く、20歳代以下で100%となっている。

60歳代では「うちエコ診断を受ける時間がない」と「うちエコ診断を受ける意味がないと思う」が同じ割合(35.3%)で最も多く、70歳代以上では、「うちエコ診断の申込み方法がわからない」が50.0%で最も多くなっている。



問32-3 「うちエコ診断」の受診希望とその理由

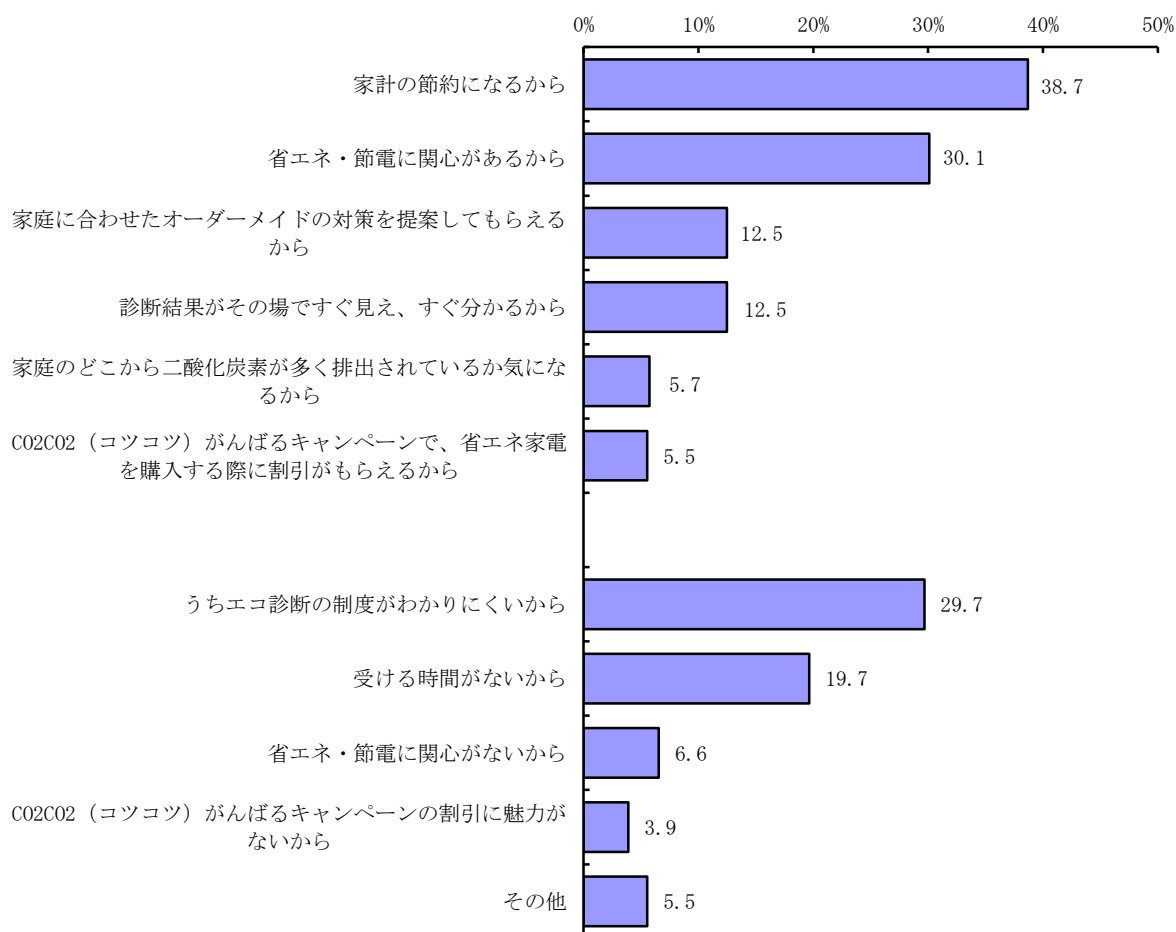
(問32で「うちエコ診断を知らなかった」と答えた方に)

あなたは、「うちエコ診断」を受けてみたいと思いますか。それとも受けてみたいと思いませんか。あなたがそう思うその理由について、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

(回答者数=977人) (複数回答) (%)

1	省エネ・節電に関心があるから	30.1
2	家計の節約になるから	38.7
3	家庭に合わせたオーダーメイドの対策を提案してもらえるから	12.5
4	診断結果がその場ですぐ見え、すぐ分かるから	12.5
5	家庭のどこから二酸化炭素が多く排出されているか気になるから	5.7
6	CO2CO2 (コツコツ) がんばるキャンペーンで、省エネ家電を購入する際に割引がもらえるから	5.5
7	省エネ・節電に関心がないから	6.6
8	受ける時間がないから	19.7
9	うちエコ診断の制度がわかりにくいから	29.7
10	CO2CO2 (コツコツ) がんばるキャンペーンの割引に魅力がないから	3.9
11	その他 (具体的に)	5.5

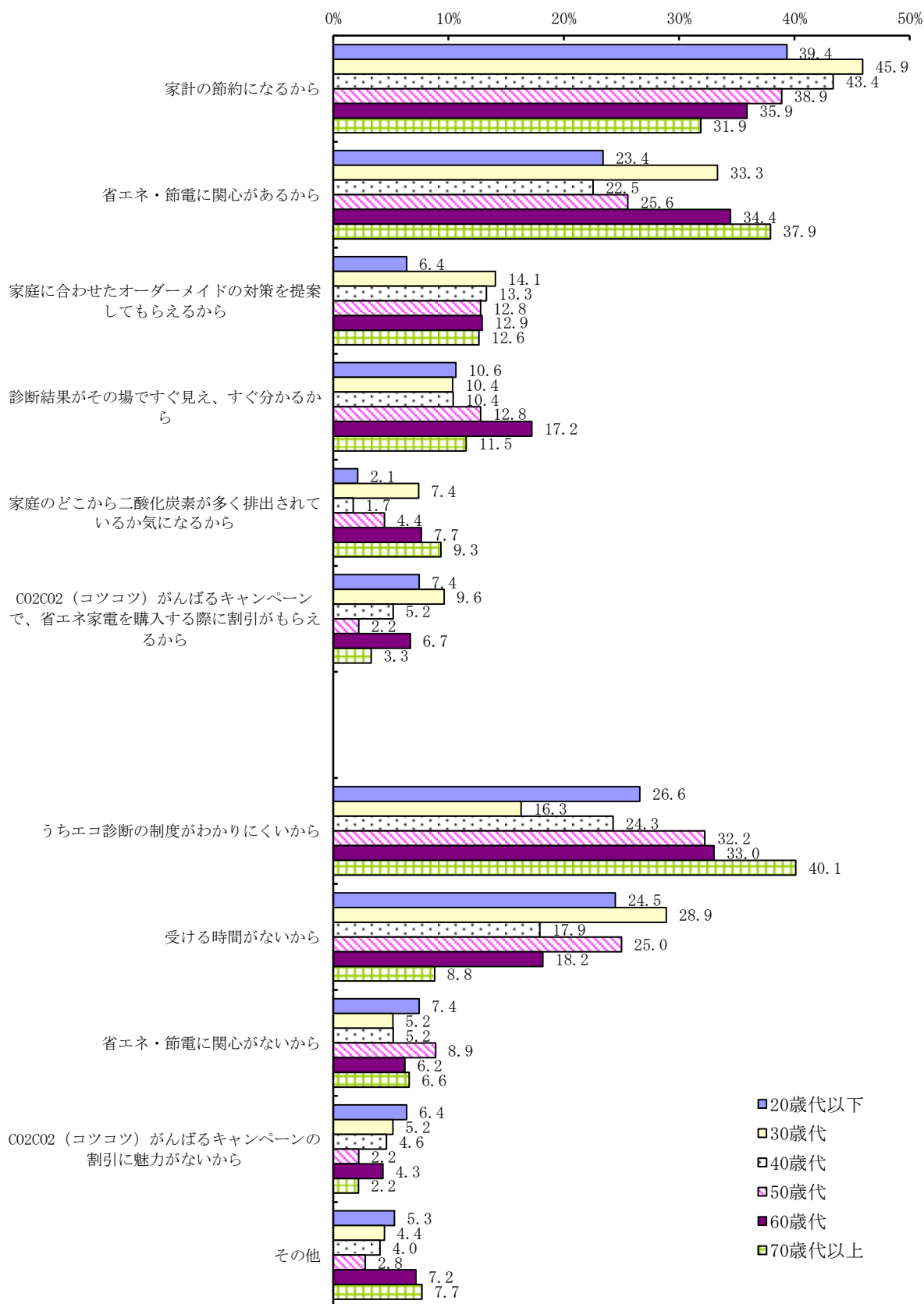
「うちエコ診断」を受けてみたいと思うか、また、思わないかその理由を聞いたところ、受けてみたいと思う理由(選択肢1~6)のうち、最も多かったのが「家計の節約になるから」(38.7%)、次いで「省エネ・節電に関心があるから」(30.1%)などとなっており、受けてみたいと思わない理由(選択肢7~10)のうち、最も多かったのが「うちエコ診断の制度がわかりにくいから」(29.7%)、次いで「受ける時間がないから」(19.7%)などとなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、受けてみたいと思う理由のうち、60歳代以下の年齢層では「家計の節約になるから」の割合が最も多く、30歳代から40歳代では4割を超えている。70歳代以上では、「省エネ・節電に関心があるから」(37.9%)が最も多い。

受けてみたいと思わない理由のうち、30歳代を除く全ての年齢層では「うちエコ診断の制度がわかりにくいから」の割合が最も多く、70歳代以上では約4割となっている。30歳代では「うちエコ診断を受ける時間がない」(28.9%)が最も多くなっている。



リユース（再使用）の推進
問33 リユース食器の利用

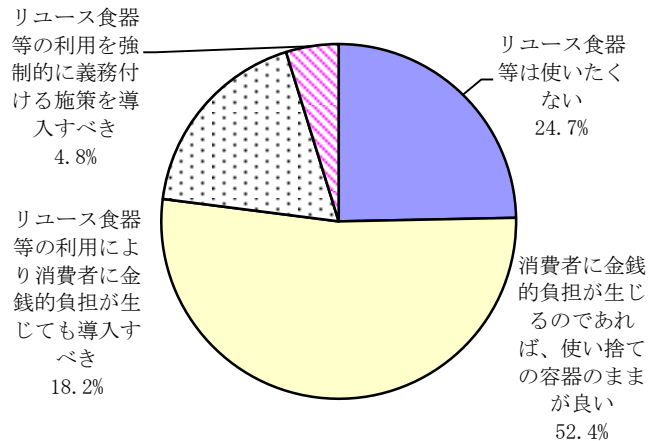
リユース食器とは、洗浄・殺菌することで繰り返し利用することができる、プラスチック製などの食器のことです。

今回、各種イベントやお祭り等に利用されている使い捨て容器の代わりに、リユース食器を利用することを想定した質問です。

あなたは、リユース食器の利用などについてどのように考えますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 消費者に金銭的負担が生じなくとも、リユース食器等は使いたくない	24.7
2 消費者に金銭的負担が生じるのであれば、使い捨て容器のままが良い	52.4
3 リユース食器等の利用により消費者に金銭的負担が生じても導入すべき	18.2
4 リユース食器等の利用を強制的に義務付ける施策を導入すべき	4.8

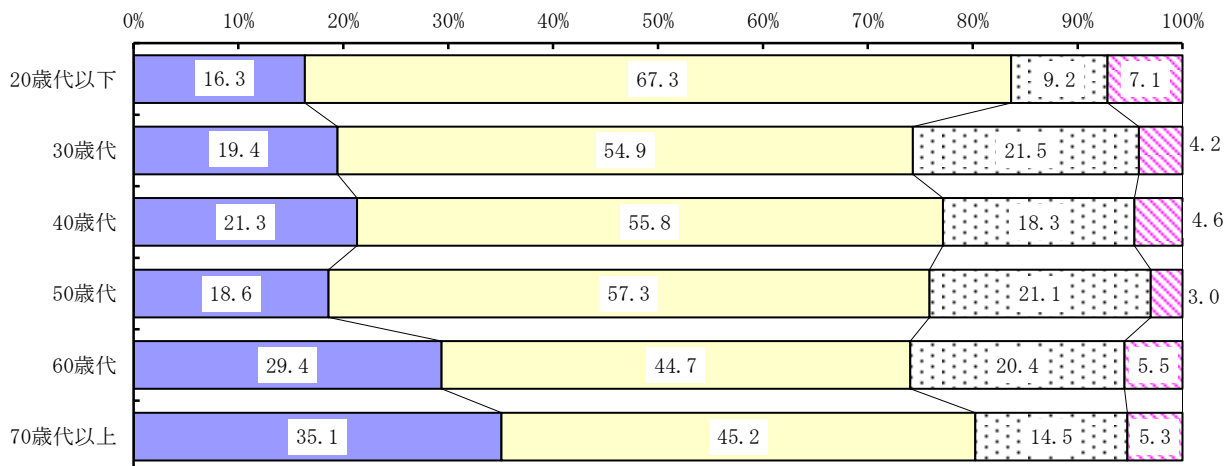
リユース食器の利用についてどのように考えるか聞いたところ、「消費者に金銭的負担が生じるのであれば、使い捨て容器のままが良い」と答えた人の割合(52.4%)が最も多く、次いで、「消費者に金銭的負担が生じなくとも、リユース食器等は使いたくない」(24.7%)、「リユース食器等の利用により消費者に金銭的負担が生じても導入すべき」(18.2%)などとなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「消費者に金銭的負担が生じるのであれば、使い捨て容器のままが良い」と答えた人の割合が多く、20歳代以下(67.3%)で最も多くなっている。

次に割合の多い理由をみると、「消費者に金銭的負担が生じなくとも、リユース食器等は使いたくない」との年齢層が多いが、30歳代及び50歳代では、「リユース食器等の利用により消費者に金銭的負担が生じても導入すべき」の方が多くなっている。



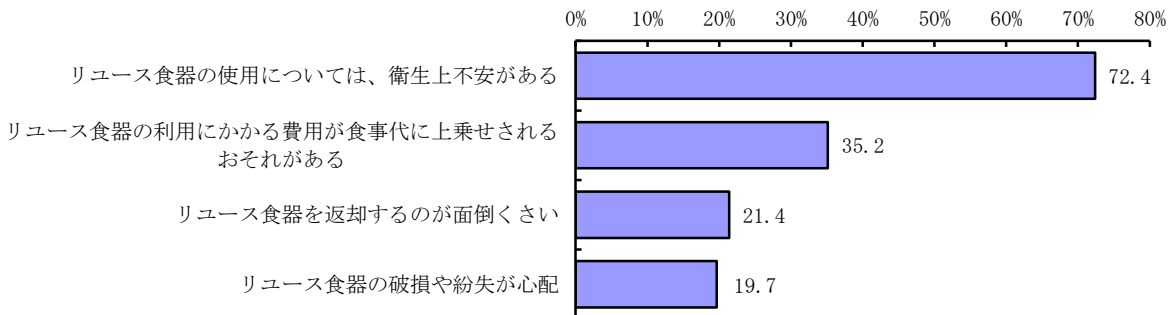
- 消費者に金銭的負担が生じなくとも、リユース食器等は使いたくない
- 消費者に金銭的負担が生じるのであれば、使い捨て容器のままが良い
- リユース食器等の利用により消費者に金銭的負担が生じても導入すべき
- リユース食器等の利用を強制的に義務付ける施策を導入すべき

問33-1 リユース食器の使用の問題点

リユース食器の使用について、どのような問題点があると考えますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

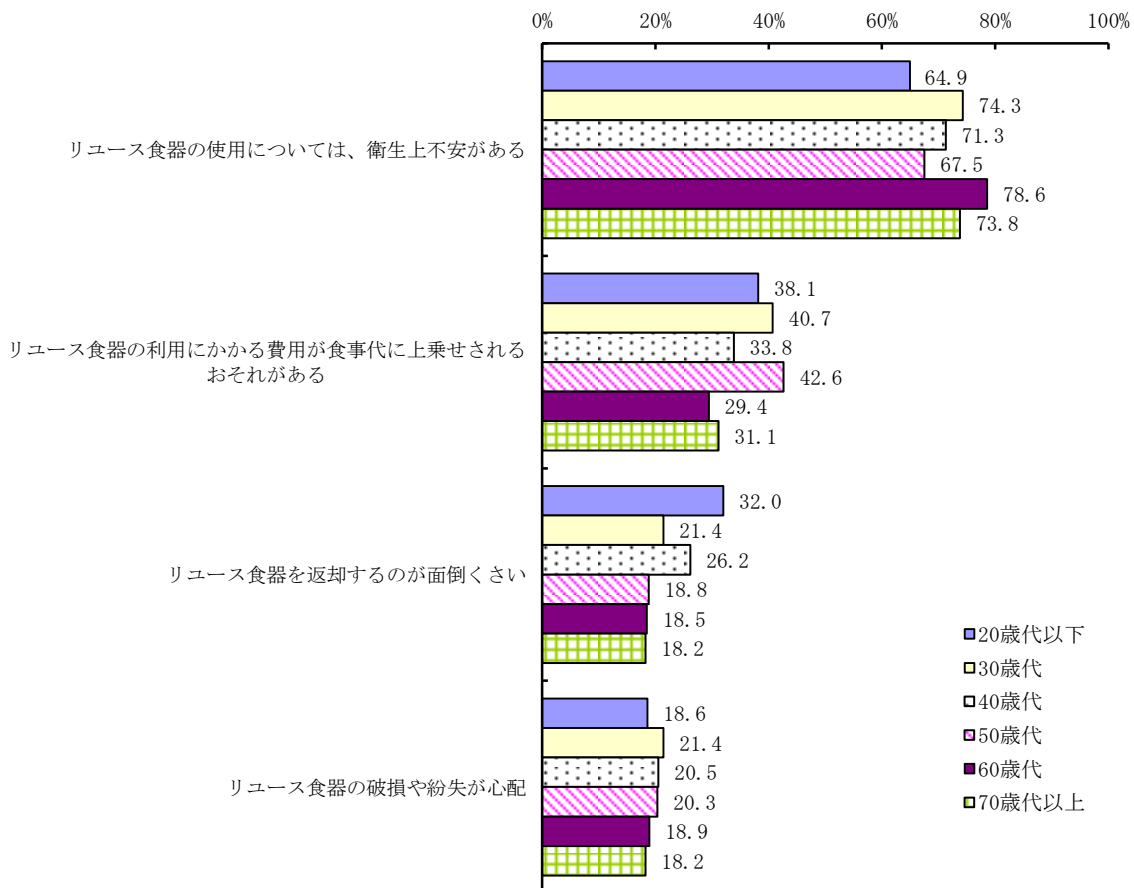
	(複数回答)	(%)
1 リユース食器の使用については、衛生上不安がある	72.4	72.4
2 リユース食器の利用にかかる費用が食事代に上乗せされるおそれがある	35.2	35.2
3 リユース食器を返却するのが面倒くさい	21.4	21.4
4 リユース食器の破損や紛失が心配	19.7	19.7

リユース食器の使用について、どのような問題点があるかを聞くと、「リユース食器の使用については、衛生上不安がある」と答えた人の割合(72.4%)が最も多く、次いで、「リユース食器の利用にかかる費用が食事代に上乗せされるおそれがある」(35.2%)、「リユース食器を返却するのが面倒くさい」(21.4%)「リユース食器の破損や紛失が心配」(19.7%)の順になっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「リユース食器の使用については、衛生上不安がある」と答えた人の割合が最も多く、次いで「リユース食器の利用にかかる費用が食事代に上乗せされるおそれがある」となっている。それ以下の理由の割合を見ると、20歳代以下及び40歳代では「リユース食器を返却するのが面倒くさい」、「リユース食器の破損や紛失が心配」の順に多いが、30歳代及び70歳代以上では両者の割合が同じで、50歳代から60歳代では「リユース食器の破損や紛失が心配」の割合の方が多くなっている。



消防団の加入

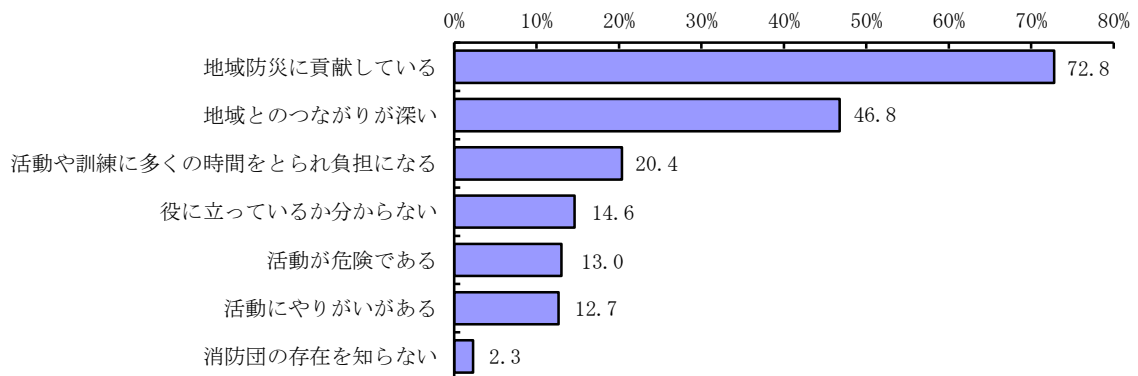
問34 消防団に対するイメージ

消防団に対するあなたのイメージを次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

消防団は、消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関であり、平常時には防火指導、応急手当の普及活動、非常時には消火活動、救助活動等を行い、地域における消防防災体制の中核的存在として、住民の安全・安心を守る重要な役割を担っています。

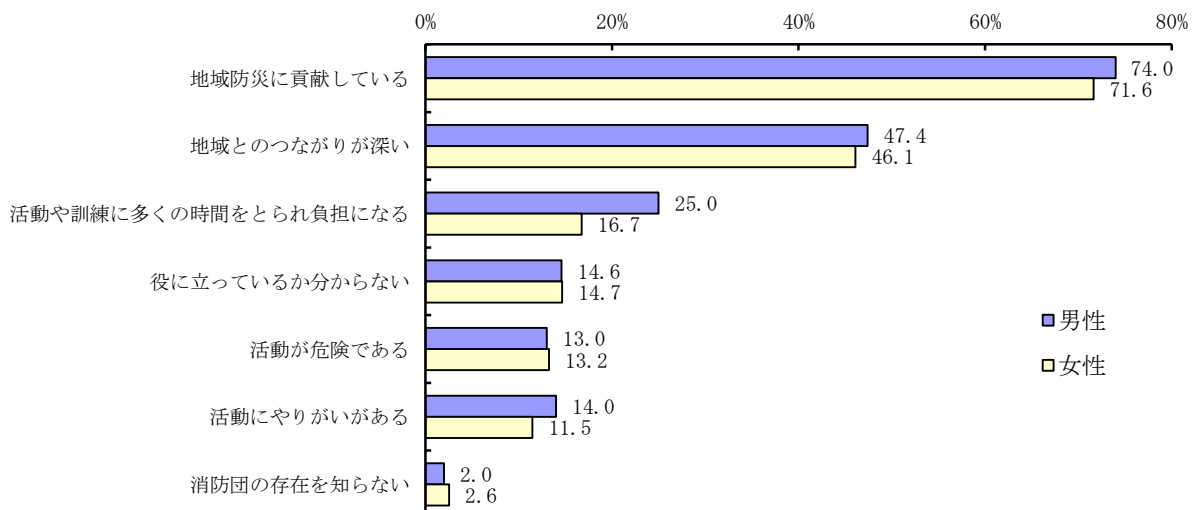
	(複数回答)	(%)
1 地域防災に貢献している		72.8
2 活動にやりがいがある		12.7
3 地域とのつながりが深い		46.8
4 活動が危険である		13.0
5 活動や訓練に多くの時間をとられ負担になる		20.4
6 役に立っているか分からない		14.6
7 消防団の存在を知らない		2.3

消防団に対するイメージを聞いたところ、「地域防災に貢献している」と答えた人の割合(72.8%)が最も多く、次いで、「地域とのつながりが深い」(46.8%)、「活動や訓練に多くの時間をとられ負担になる」(20.4%)、「役に立っているか分からない」(14.6%)などの順になっている。



【性別】

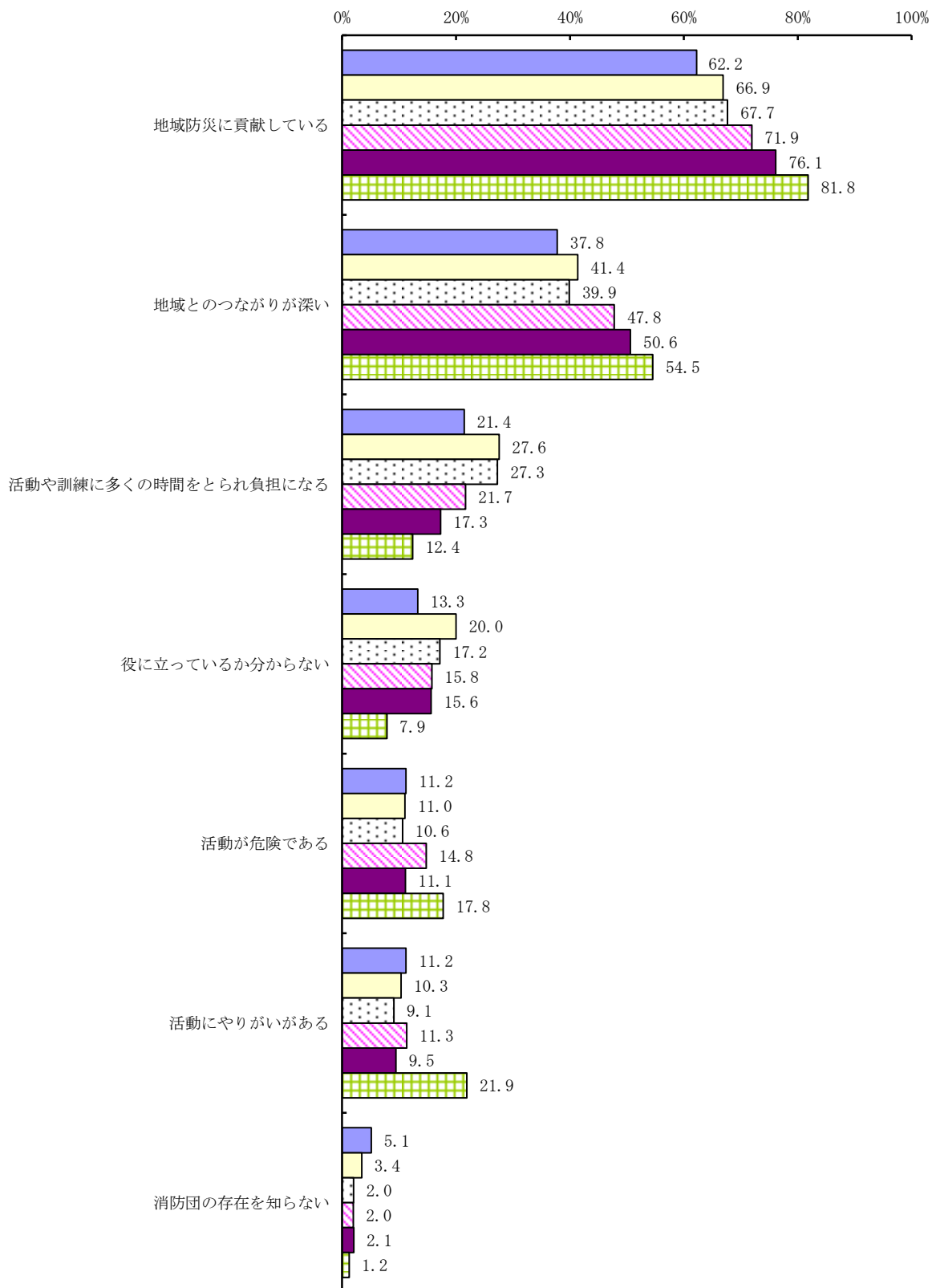
性別にみると、「地域防災に貢献している」と答えた人の割合は、男性(74.0%)の方が女性(71.6%)より2.4ポイント多く、「活動や訓練に多くの時間をとられ負担になる」は、男性(25.0%)の方が女性(16.7%)より8.3ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「地域防災に貢献している」と答えた人の割合が多い。中でも、70歳代以上で81.8%と最も多く、年齢が上がるにつれ割合が多くなっている。また、次に多い「地域とのつながりが深い」も70歳代以上が最も多く(54.5%)、年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向にある。また、70歳代以上では、「活動にやりがいがある」と答えた人の割合(21.9%)も、他の年齢層と比較して多くなっている。

一方、30歳代、40歳代では、「活動や訓練に多くの時間をとられ負担になる」の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。

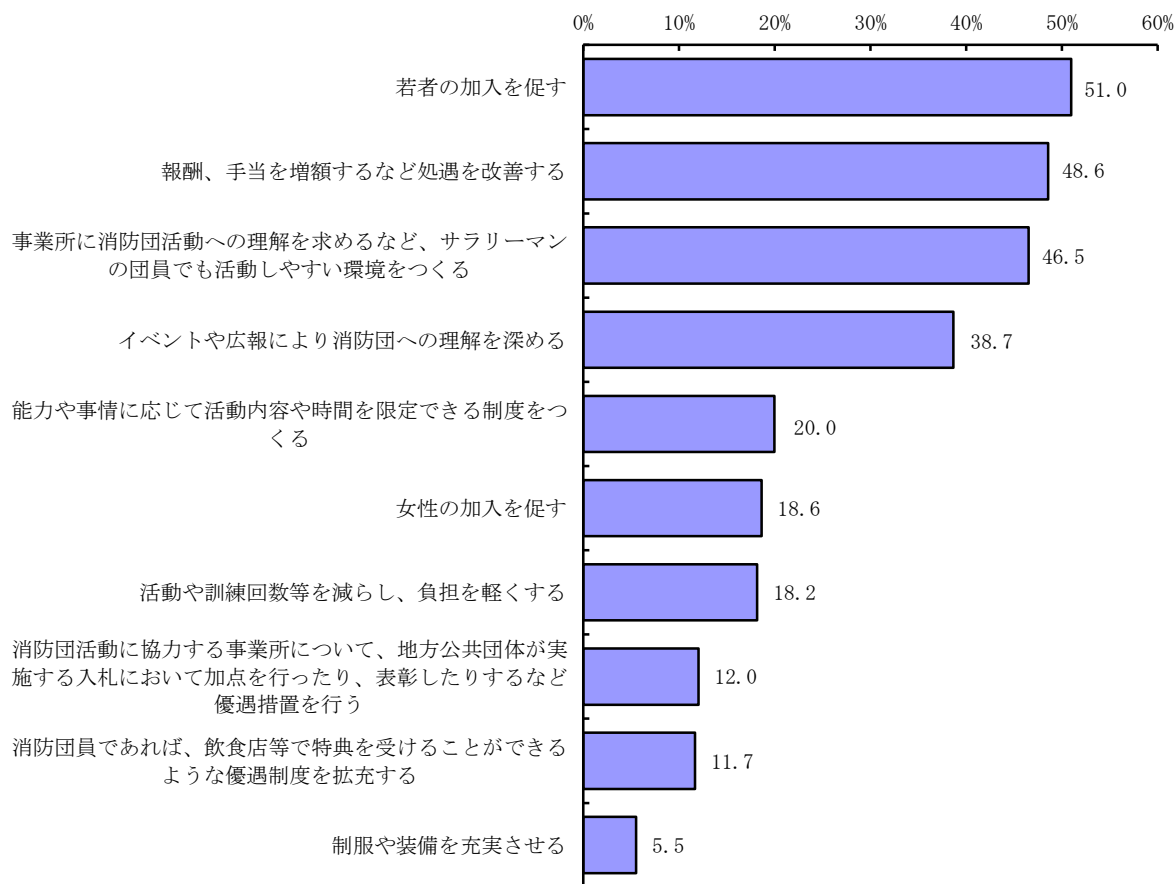


問34-1 消防団員の増加方法

現在、消防団員数は、社会経済情勢の変化等に伴い、減少傾向にあります。消防団員を増加させるためには、何が必要だと思いますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

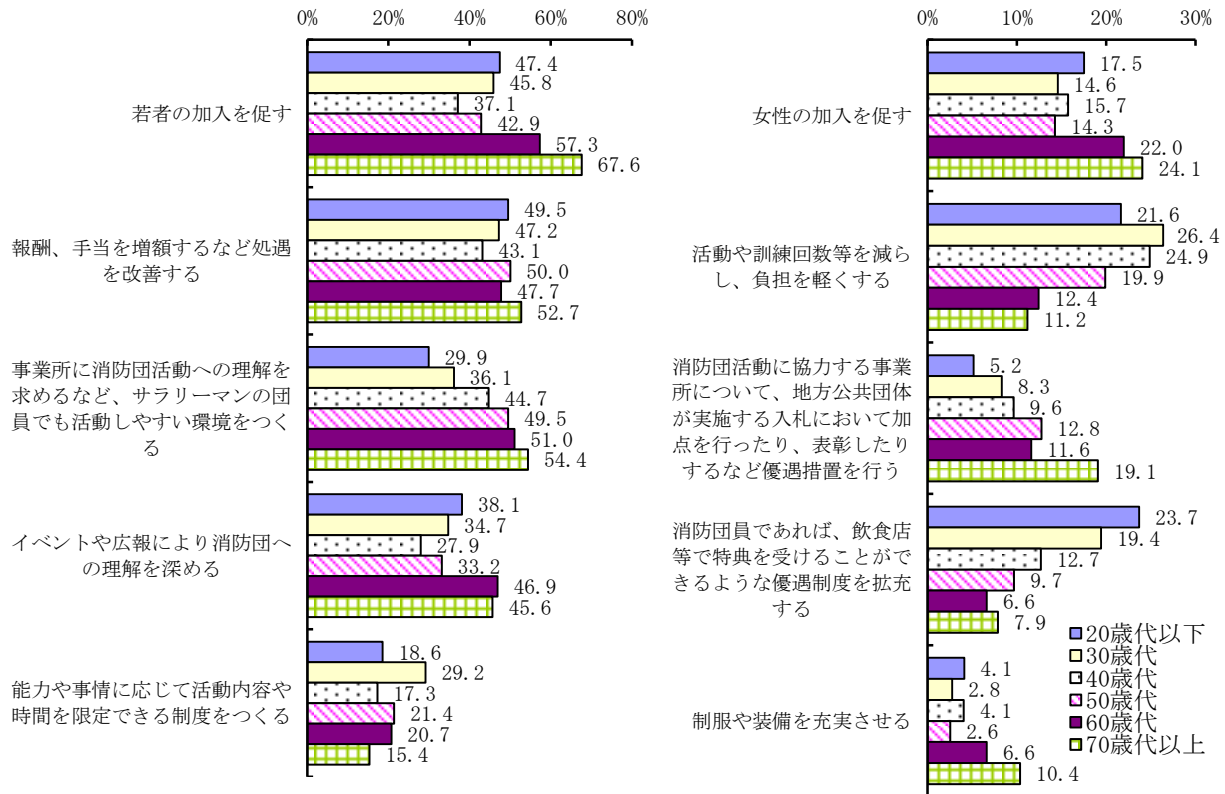
	(複数回答)	(%)
1 イベントや広報により消防団への理解を深める	38.7	38.7
2 報酬、手当を増額するなど処遇を改善する	48.6	48.6
3 制服や装備を充実させる	5.5	5.5
4 若者の加入を促す	51.0	51.0
5 女性の加入を促す	18.6	18.6
6 活動や訓練回数等を減らし、負担を軽くする	18.2	18.2
7 消防団員であれば、飲食店等で特典を受けることができるような優遇制度を拡充する	11.7	11.7
8 能力や事情に応じて活動内容や時間を限定できる制度をつくる	20.0	20.0
9 事業所に消防団活動への理解を求めるなど、サラリーマンの団員でも活動しやすい環境をつくる	46.5	46.5
10 消防団活動に協力する事業所について、地方公共団体が実施する入札において加点を行ったり、表彰したりするなどの優遇措置を行う	12.0	12.0

消防団員を増加させるためには、何が必要だと思うか聞いたところ、「若者の加入を促す」と答えた人の割合(51.0%)が最も多く、次いで、「報酬、手当を増額するなど処遇を改善する」(48.6%)、「事業所に消防団活動への理解を求めるなど、サラリーマンの団員でも活動しやすい環境をつくる」(46.5%)、「イベントや広報により消防団への理解を深める」(38.7%)などとなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、60歳以上の年齢層では「若者の加入を促す」と答えた人の割合が最も多いが、30歳代以下及び50歳代の年齢層では「報酬、手当を増額するなど処遇を改善する」、40歳代では「事業所に消防団活動への理解を求めるなど、サラリーマンの団員でも活動しやすい環境をつくる」と答えた人の割合が最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、勤め人以外では「若者の加入を促す」と答えた人の割合が多く、農林漁業で65.8%と最も多くなっているが、勤め人では「報酬、手当を増額するなど処遇を改善する」と答えた人の割合が最も多く(48.6%)なっている。

